

2014年3月期 第1四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード:8750

2014年3月期 第1四半期決算のポイント

- 経常収益は前年同期比で高い伸びを実現しました。当社は4月の料率改定の影響を受けましたが、成長事業である第一フロンティア生命や海外子会社の好調な営業業績等を背景として、増収となりました。
- 当社の資産運用損益が大幅に改善したことで、逆ざやが減少したほか、連結業績（経常利益・四半期純利益）も高い伸びを見せました。成長事業においても、契約の積み上げを通じて、収益基盤を強化しました。
- 当社および第一フロンティア生命で内部留保を積み増した上で、連結四半期純利益は通期業績予想に対して71%の高い進捗となりました。

(1) 経常収益

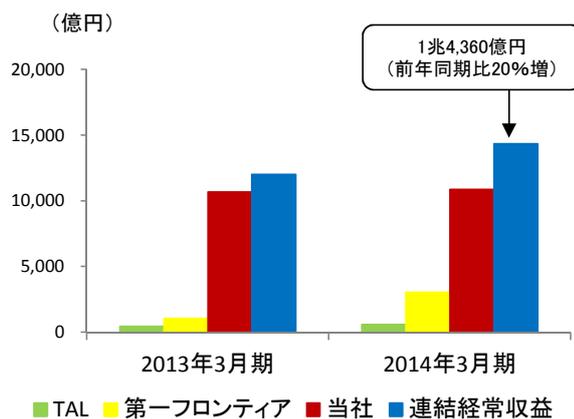
連結経常収益は1兆4,360億円（前年同期比20%増）となりました。

第一フロンティア生命（以下、「第一フロンティア」）や豪州TAL社（注）等の海外子会社における好調な営業業績を背景として、保険料等収入が前年同期比約1,100億円増加したことが増収の主な要因です。

（注）TAL社とは？

2011年5月、当社の関連会社だったタワー社（TOWER Australia Limited）を完全子会社化し、2011年4月1日より連結業績に取り込んでいます。タワー社は2011年6月に社名変更を行い、TAL社（TAL Limited）となりました。

経常収益 第1四半期実績



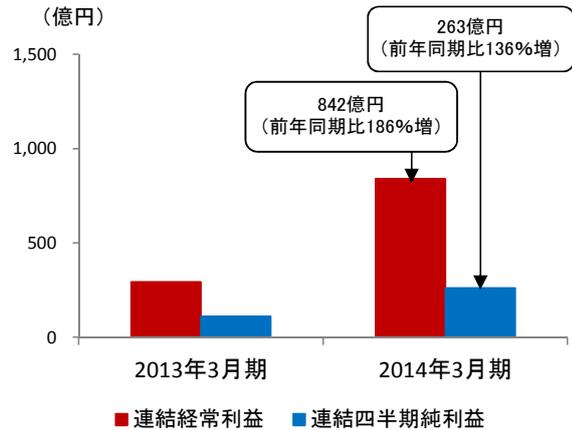
(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は842億円（前年同期比186%増）、連結四半期純利益は263億円（同136%増）となりました。

当社の資産運用収支が改善したことで、逆ざやは減少し、また、連結経常利益・連結四半期純利益は大幅増益となりました。

当社および第一フロンティアで内部留保を積み増した上で、連結四半期純利益は通期業績予想に対して71%の高い進捗となりました。第一フロンティアでは、預かり資産残高の積み上げを通じて、収益基盤を強化しました。

経常利益・純利益 第1四半期実績

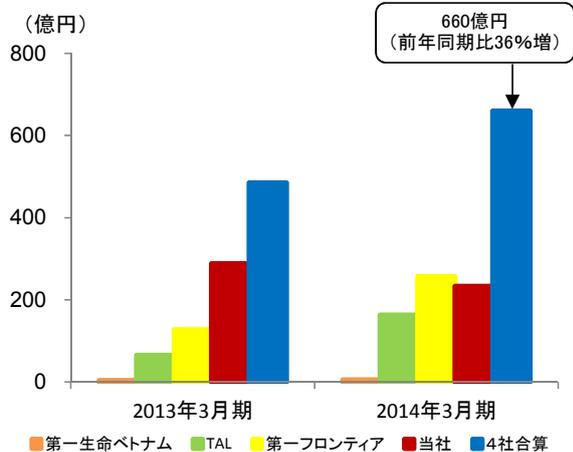


(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、当社（個人保険・個人年金保険の合計）、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、660億円となりました。

当社において前年度末の販売増の反動がありましたが、第一フロンティアの変額年金の販売、TALの団体保険の販売が大きく増加し、4社合算では前年同期比36%の増加となりました。

新契約年換算保険料 第1四半期実績



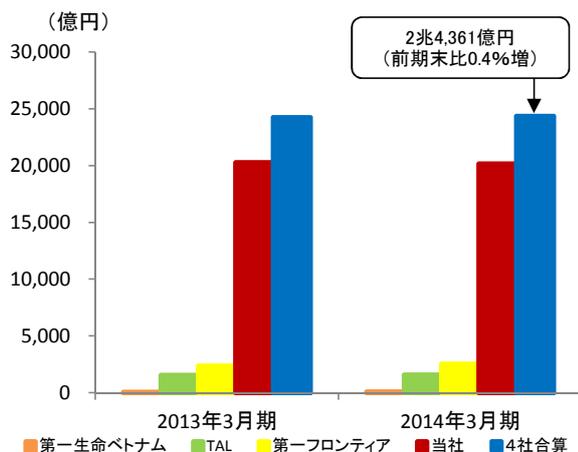
(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、当社（個人保険・個人年金保険の合計）、第一フロンティア、TAL、第一生命ベトナムの4社合算で、2兆4,361億円となりました。

当社の保有契約は前期末比ほぼ横ばいで推移しました。第一フロンティア（同6.8%増）、TAL（同9.1%増・現地通貨建て）と、成長分野は高い成長を見せており、第一生命グループ全体では同0.4%増と、プラス成長を維持しています。

内外の成長分野がバランスよく貢献し、保有契約の成長を支えています。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

当社の一般勘定資産の含み損益(2013年6月末)は、2兆1,201億円となりました。国内株式は、市場が堅調に推移したため含み益が増加しましたが、国内外の金利が上昇したことにより、国内債券および外国証券の含み益は減少し、全体では前年度末比で約7,138億円の減少となりました。

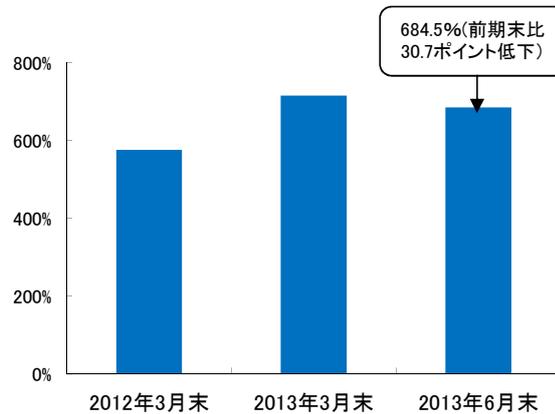
含み損益(当社、一般勘定)

	(億円)		
	2013年 3月末	2013年 6月末	増減
有価証券	28,144	20,994	△7,150
うち国内債券	16,275	9,344	△6,931
うち国内株式	6,433	7,299	+865
うち外国証券	5,050	4,021	△1,028
不動産	214	215	+0
その他共計	28,339	21,201	△7,138

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

ソルベンシー・マージン比率(2013年6月末)は、前期末と比べ、有価証券含み益の減少等により若干低下しましたが、684.5%と引き続き高い水準を維持しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

世界経済は先進国・新興国共に回復が遅れている中、数少ない成長の鍵である日本経済も、成長戦略の具体的な成果を見極める必要があります。加えて、米国の金融緩和策からの出口戦略も各国の金融環境に大きく影響を与える可能性があり、年度末までの外部環境にはまだ不透明な部分が多いと考えられます。

これらの理由から、2014年3月期の連結業績予想を据え置くこととしております。

連結業績予想

	(億円)		
	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (予想)	増減
経常収益	52,839	46,630	△ 6,209
経常利益	1,572	1,760	+187
当期純利益	324	370	+45
	(円)		
1株当たり ^(※1,2)			
当期純利益	3,275	37	---
1株当たり ^(※2)			
期末配当金	1,600	20	---

(※1) 1株当たり当期純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。
(※2) 2014年3月期の連結業績予想における、1株当たり当期純利益ならびに1株当たり期末配当金については、2013年10月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割する株式分割を考慮した額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の1株当たり当期純利益は3,733円、1株当たり期末配当金は2,000円となります。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。